

「協働コーディネーター養成講座」 ーファシリテーター基礎編ー

(特非) CNCP 教育研修委員会 委員
(特非) 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 理事 **足立 忠郎**



CNCP 教育研修委員会では協働コーディネーター養成を目指した活動を開始した。今回は第 1 回目の基礎編として「ファシリテーター養成講座」を開催したので概要を報告する。

- ・日時：平成 29 年 2 月 22 日（水）10：00～17：30
- ・開場：会場名古屋ビル新館 2 階 建設通信新聞社会議室
- ・講師：世古一穂（NPO 研修・情報センター代表理事、元金沢大学大学院教授、CNCP 理事）
- ・参加者数：16 名（定員 15 名）

1. 講座の主旨

身近なところからワークショップや合意形成の課題を見つける視点、視野を持ち、持続可能な社会をつくるために必要な協働コーディネーターの知識と技能を身につける。特に今回は、「気づき」と「行動」の相互作用から得られる学びをもとに、社会をより良く変えていく「ファシリテーター」の養成を目標とする。

「基礎編・・・ファシリテーター養成講座」の内容の例

No.	項目	概要
1	協働コーディネーターとは	・その理念と果たすべき役割
2	コーディネーターとファシリテーターの違いとは	・それぞれの概念と役割の違い
3	ワークショップとは	・ワークショップの種類
4	ワークショップの組み立て方	・アイスブレイキングの役割といくつかの事例 ・ワークショップの展開の仕方
5	情報カードの活用	・情報カードの書き方 ・情報カードの整理の仕方とルール
6	まとめの仕方	・ワークシートの作成 ・ダイアグラムの作成の手順
7	発表	・発表の仕方とその工夫
8	ふりかえり	・ふりかえりの意味と意義 ・アンケートとふりかえりの違い ・ふりかえりの多様な方法

2. ワークショップの主な内容

アイスブレイキングとはワークショップの最初に行う、初対面の緊張感（アイス）を一気に壊して（ブレイク）いくゲームである。1 回目のチーム編成では、誕生日順に出席者が 1 列に並び、その順番でチーム分けを行った。メンバーが互いの誕生日を確認する過程で、場が和んでいくことを感じた。2 回目のチーム編成では、北から出身地順に参加者が 1 列に並び、その順番でチーム分けを行った。

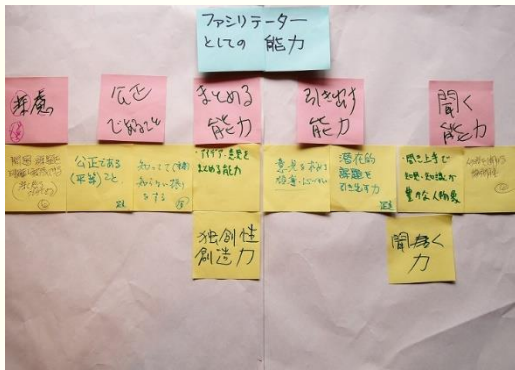
最初のテーマは「Wish Poem」であった。各メンバーはインフラメンテナンスの望ましいイメージについて 1 行の詩を作成した。次に、チーム内で協議しながら各メンバーの詩を繋ぎ合せて一つの詩を完成させ、チームごとにつくりあげた詩を発表した。作業を通じて、いつの間にかメンバー間で①課題の抽出、②数回の合意形成、③情報共有を行っていたことに気付くことができた。

二番目のテーマとして「ファシリテーターの概念」、三番目のテーマとして「インフラメンテへの市民の関わり方」についてグループワークを行った。メンバーが自分の思いを自由にポストイットに記入し、そのポストイットをワークシートに並べながらチームの考えをまとめていった。まとめる上でのポイントは構造化であ

る。次ページ左の写真はポストイットを3階層に構造化した例である。構造化の作業を通じて他のメンバーの考えを理解し合意することができ、チームの考えをワークシートにわかりやすく表現することができた。

世古講師から、「参加のデザイン」「協働コーディネーター・ファシリテーター」「市民参加の8つのはしご」などについて具体的な説明があった。参加のデザインには「参加のプロセス」「参加のプログラム」「参加構成」の3つのデザインがあるが、参加のプロセスデザインが特に重要で、いつどこで、誰が、どんな立場で参画していくかを考えることが求められることを理解した。協働コーディネーター・ファシリテーターについては文末に記載した。

市民参加の形態として、現状はお知らせや意見聴取などの「形としての市民参加」が多く、「市民の力が生かされる市民参加」までは至っていないという状況を理解した。



ワークシートの例（3階層化）



発表の様子

3. 受講した感想

それぞれのグループワークにおいては限られた時間の中で発表資料をまとめ上げることを求められ、チームメンバーは討議を通じてワークシート作成に集中した。ワークショップ終了時には心地良い疲労感と同時に充実感とメンバーへの親しみを感じた。終了後の懇親会が盛り上がったのは言うまでもない。

このようなワークショップであれば、初対面で価値観や利害関係の異なる方々とも理解を深められそうな感触を得た。住民との合意形成の方法として有効であろうと確信することができた。このような場をつくれるコーディネーターが今後ますます必要となると思う。

4. インフラメンテナンス国民会議・第1回市民参画フォーラム

インフラメンテナンス国民会議・第1回市民参画フォーラム「協働コーディネーターの知識と技を身につけよう」を下記の通り開催する。

- ・日時：2017年3月28日（火）14：00～17：00
- ・場所：中央合同庁舎3号館4階総合政策局局議室

今後も継続的に、ワークショップを体験し、ファシリテーターを養成する機会を設けるので皆様のご参加を期待している。

■ 協働コーディネーターとは？

参加型協働社会を拓く新しい職能である。協働コーディネーターの役割は次の3つがある。1つ目はファシリテーター、2つ目はコーディネーター、3つ目は協働性の評価をするアセッサー

■ファシリテーターとは？

ファシリテーターという言葉は、ファシリテート（facilitate）から来ている。ファシリテートは「容易にする、促進する、手助けする」という意味である。単なる“講師・先生”ではなく、参加者一人ひとりが持っている経験・知識、情報、知恵、アイデアを共有し「自ら学び、考え、意識や行動を変化させていこう」とする人のことをファシリテーターという。

■ワークショップとグループワークについて

ワークショップとは「複数人間が集まって、参加型で問題を解決するための手段」の総称で、シンポジウムや会議、研究会なども参加型で行えば広い意味でワークショップといえる。

それらの会議の参加者が多い場合、いくつかグループに分けて意見交換をして、折に触れてそれらを総括する等の手法が取られることが多い。その場合全体をワークショップと呼ぶが、グループごとの話し合いはグループワークと称する。